

# 大阪の 社会福祉

2021.12

799

The social welfare  
in OSAKA

- 此花区 てへろキッチンカー  
— 認知症の高齢者が売り子のお弁当屋さん — ① ②
- 中央区 桃谷スマホサポーター、満を持してデビュー!! ③
- 「大阪市社会福祉協議会 設立70周年記念誌」発刊 ④ ⑤
- あらためまして、生活支援コーディネーターです。 ⑥
- 地域福祉活動の今① ⑦
- 「コロナ禍における地域福祉活動状況調査」より —
- こんなことやっています! 私たちの施設から、  
社会福祉法人堺あかり会 浅香東保育園 ⑧



大阪社会福祉協議会

<http://www.osaka-sishakyo.jp>

午前11時20分、まもなく開店です (此花区社協)

## 此花区

## てへろキッチンカー

— 認知症の高齢者が売り子のお弁当屋さん —

中止期間を乗り越え、  
「出張型」で再出発

一流のプロが調理し、認知症のある人が注文や配膳をおこなう「注文をまちがえる料理店」(東京都・平成29年)の此花区版として、平成31年に開催された「てへろキッチン」まちが

いが許されるレストラン」。コロナ禍での中止期間を乗り越え、「キッチンカー」が此花区と隣接する福島区と合わせて6会場に出向くという新たな形で、10〜11月に実施されました(主催:てへろキッチン実行委員会)。

(2面につづく)

## HB

ボッチャで盛り上がったパラリンピック。障がいのある人もない人も対等に楽しめる競技の魅力に憑かれた人もたくさんおられることだろう。▼先日、大阪風船バレーボール普及会という団体から、20周年記念の冊子が送られてきた。障がいの有無に関係なく楽しめるボッチャの考え方をさらに推し進めた、勝負にこだわらないスポーツだ。▼「ふれ愛、ささえ愛、笑い愛」をモットーに、障がいの有無だけでなく、老いも若きも子ども、男女も一緒に楽しく体を動かそうという風船バレー。バドミントンのコートに直径40センチの風船だけが道具。▼ルールもユニークで、6人制のバレーなのだが、3回で返すのではなく、コート内の全員が1回は触って10回以内に返球するというのだ。全国統一のルールはなく、各地で少しずつルールの違いはあるそうだが、想像しただけで楽しそうな場面が浮かび上がってくる。▼この競技の普及のために、大阪でもたくさんのボランティアが参画して、延々20年。共生社会は孤立する人を生まず、排除をしないもの。そんな社会のシンボルのようなスポーツの存在に心洗われた。

(石)

発起人は、特別養護老人ホームラヴィータ・ウーノの中川春彦さん（現施設長）。区社協も協力し、企業やボランティア団体などに声をかけて実行委員会が立ち上がり、平成31年4月に第1回を開催しました（本誌・令和元年6月号掲載）。認知症のある人がいきいきと働く姿は、その場に参加した人たちの心に深く残るものでした。

同年秋の第2回は、協力者が増え、規模を拡大して実施。しかし、令和2年に入り、新型コロナウイルス感染症の影響で、

### 続々と集まる 共感と応援の気持ち

長引くコロナ禍で、施設の入所者は、外出や家族との面会も制限され、外との交流が極端に少なくなっていました。その状況を案じていた中川さんは、「キッチンカーで地域に出て開催できないか。入所者に売り子としてお弁当を売ってもらい、コロナ禍でもがんばり続ける飲食店の応援にもつながれば」と発案。取組みに関わるメンバーで意見を重ね、キッチンカーのレンタル料、のぼりなどの装飾費、グッズ製作費などの運営資金をクラウドファンディング（インターネットを介した資金調達）を実施した結果、令和3年8月末には目標額50万円の倍以上となる100万円を超える支援金が集まりました。

### 地声でも 聞こえているよ 糸電話

並行して、趣旨に賛同する施設、飲食店、

企業、ボランティア、区役所などに呼びかけ、10月17日から11月6日の間で、5日間・計6会場（施設・区役所など）にキッチンカーが出動し、3つの施設から認知症の高齢者の方々が売り子として参加することになりました。

### 注文は「糸電話」で

10月21日、此花区社協の玄関ホール。「カレー2つください」。あらかじめ予約していたお客さんからの注文を、売り子を務める認知症の高齢者の方が感染対策として取り入れられた「糸電話」で聞き取り、キッチンカーの中に伝えます。「糸はピンと張らんと聞こえへんな」「今のは糸電話なくても聞こえてたな」。糸電話は、ユーモアあふれるコミュニケーションツールとなり、サポートする施設職員、ボランティア、お客さんらとともに笑い合う姿が見られました。

会計を経て、お弁当を手渡し。売り子の一人は、「ありがとう」の一言のほかに、話ができるのがうれしい」と笑顔で話しました。お弁当を受け取った後は、初回からこの活動に協



お弁当の受け渡しはこちら（左：此花区社協 久保さん）

力している認知症カフェ「来てみてカフェ」ボランティアグループによる無料のコーヒーサービスや、区内の就労継続支援B型ごらくの販売コーナーが並びます。これらは6会場のうち、区社協会場ならではのコラボ企画。区社協・地域支援担当の久保奈津未さんは「ごらくさんからコロナ禍でイベント販売の場所が減ったと相談を受けていたので、この機会に参加することで地域とのつながりを持つていただけたらと思います。コラボのお声がけをしました。認知症当事者の方の活動や障がいのある方の作品を通して、認知症のある方や障がいのある方の理解が深まればと思います」と話しました。

### 認知症の人が 輝けるまちに

お客さんが最後に案内されるのは、撮影用の特製パネル。人と人との距離を求められるご時世のなか、パネルから顔を出すと、絵のなかではお互いに手をつないだ姿となっています。その場で出会った人同士も一緒に、観光地気分撮影を楽しみました。

「認知症の人が、輝けるまちをつくりたい」と語る中川さん。活動報告冊子や、講演を通じて、これから一層「てへぺろキッチン」の輪を広げたいという思いがあるそうです。関わる団体・個人が広がり、開催の形が変わっても、認知症の当事者の方々が主役、という当初のコンセプトを貫き、取組みを続けていきます。



パネル前で語る発起人の中川さん



# 桃谷スマホサポーター、満を持してデビュー!!

中央区桃谷地域では、地域の有志の方々が「スマホサポーター」になって、ちょっとしたスマホの困りごとをお助けする取り組みを進めてきました。

本誌でもその様子を伝えてきましたが（令和3年5月号、7月号）、11月13日桃谷会館でおこなわれた「ふれあい喫茶くすのき」にスマホ操作のお助けコーナーを設置し、いよいよデビューの日を迎えました。

## スマートフォンの使い方 お助けするで!

今回は初回ということもあり、基本操作、インターネットの使い方編。〆再起動の操作を教えてほしい〆インターネットの検索方法を教えてほしい〆

などが書かれたA5サイズの「おたすけカード」を準備し、その中から教わりたい項目にチェックを入れてもらうことにしました。

コーナーを訪れた人には、できるようなるまで何度も一緒に操作を繰り返すなど丁寧に対応し、その場でメモをして帰ってもらえるように、メモ用紙と鉛筆を用意しておく心配りも。地域内に住むサポーターということもあり、「ちょっと聞いていい?」と顔見知りの方の飛び入り参加も多数あり、質問も

「LINEの削除の仕方」や「QRコードを読み込む方法」など、想定外のものも多くありました。中には「ス

トレージがいっぱいになって」という難易度の高い質問もありましたが、悩み、試し、決しようと一緒に試行錯誤しました。

## デビュー戦を終えて

サポーターにとって、地域の方のスマホ操作のお助けをしながらコミュニケーションを楽しんでいるうちに、あっという間に「デビュー戦」が終わりました。終了後のふりかえりでは、前日にテキストを読んで予習を

してきたと話すサポーターも。「サポーター自身が使っている機種で、iPhone担当やAndroid担当を分けてみようか」「日常的に使っている中で、困っていることを聞きたい人が多い」「いろいろな質問をされるので、こちらの頭の体操にもなる」などの気づきを共有しました。また、口々に「もっと勉強せなあかん」と話され、すでに次の活動を見据えていました。

この日を迎えるにあたり、中央区社協では、スマホを教えてほしい方がどれくらいいるのか、どのようなことを教えてほしいのかを把握するため、桃谷地域の全戸（1200戸）を対象に、スマートフォンの操作方法に関するアンケート調査を実施しました。

地域の動きをサポートしてきた地域支援担当の中原沙江さんは、これがゴールではないことを感じました。

「まずは無事にデビューができたことにホッとしています。そして、何よりサポーターから『今日は楽しかったなあ』という声を聞けたことが嬉しいです。実際に、地域でのつながりも広がりました。先生に教わ



「友だちに写真を送りたい」の質問にも難なく対応

る」という形ではなく、ちょっとした聞きたいことを気軽に聞ける関係は、地域ならではの感覚です。これからもサポーター自身が「楽しい」と思えることを大事にし、生き生きと活動ができるように後方支援していきたいと思えます。そして地域の中でスマホサポーターの認知度をあげ、当初思い描いていた、オンラインを活用し、ふれあい喫茶の様子を一人暮らしの高齢者に届け、見守り活動として活かすことができるようにしたいです」と思いを語りました。

桃谷スマホサポーターの次の活動日は、12月11日のふれあい喫茶くすのき内での予定です。



「もう1回一緒にやってみましょう」と声かけ。一緒に何度も繰り返します

# 「大阪市社会福祉協議会 設立70周年記念誌」

## 発行



### <目次>

- 発行のごあいさつ
- 祝辞
- 特別寄稿
- 応援メッセージ
- I 設立からの歴史
- II この10年間のあゆみ
  - 寄稿
  - この10年間のあゆみ（概要）
  - 1 地域福祉活動の推進
  - 2 ボランティア・市民活動の推進
  - 3 地域包括ケアの推進
  - 4 相談機能の推進
  - 5 権利擁護の推進
  - 6 福祉人材の確保・育成
  - 7 広報・情報発信／人権啓発活動／関係機関・団体との協働
  - 8 災害支援の取組み
  - 9 社協が担う事業の変遷
  - 10 組織基盤の強化
  - 11 新型コロナウイルス感染症の影響と社協の取組み
- 数字で見る市社協・区社協
- 24区社会福祉協議会の取組み
- IV 資料編
  - ・年表
  - ・令和3年度役員・評議員名簿
  - ・歴代役員名簿（平成24年度～令和3年度）
  - ・大阪市社会福祉協議会 定款
  - ・組織図の変遷（平成23年度～令和3年度）

市社協では「大阪市社会福祉協議会 設立70周年記念誌」を11月に発行しました。市社協のこれまでのあゆみをこれから先へと伝えていくために、設立から70年間の歴史と今の姿、24区社協の取組みなどを114ページにまとめています。

「I 設立からの歴史」では、今につながる組織や事業の出发点・分岐点を中心にたどっています。設立の経緯や初期の活動内容、現在にも続く事業の起りや、社会の変化に対応した事業の変遷など、設立からの大きな流れを把握することができ、社協活動として全国初と言われている住吉区墨江地域の「老人食事サービス」の開始

や、ホームヘルプサービス事業などの在宅福祉サービスの推進、区社協の法人化や区在宅サービスセンターの開設など、8ページでその歴史をふりかえっています。

「II この10年間のあゆみ」は、市・区社協にとって変化の大きかったこの10年間の概要に加え、11のテーマ別に掲載しています。テーマごとに項目を分けているため、「ボランティア」「相談支援」「災害」など、興味・関心のある部分から読んでいただくこともできます。

また、社協の今の姿を伝えるページとして、同じく70周年を記念して作成した「市・区社協の活動紹介冊子」から「数字でみる市社協・区社協」ページを掲載し、各事業の実績を数字であらわしています。

「III 24区社会福祉協議会の取組み」では、24区社協会長の

掲載した扉ページに続き、各区社協1ページで、区の特性に合わせた特長ある取組みを紹介しています。

最後に「IV 資料編」として、年表や役員名簿、組織図などを掲載しています。特に、「直近10年間の動向」は、区社協や地域の動きが特に活発であった時期であることから、設立から60年間の年表とは別にまとめ、市社協、区社協、地域・社会情勢・市政・法制度・災害等の出来事を並べて見ることで、

設立から60周年までの詳しい歴史、70周年記念誌については、市社協ホームページ内の「設立70周年記念特設ページ」からご覧いただけます。

また、「市・区社協の活動紹介冊子」についても、同サイトに掲載していますので、合わせてご覧ください。



## 数字で見る市社協・区社協

### ささえる

各事業における相談件数（令和2年度）

見守り相談室 地域包括支援センター  
62,561件 177,366件

あんしんさぽーと事業 生活困窮者自立相談支援事業  
2,728件 16,394件

見守り相談室から  
要援護者情報（名簿）を提供した  
地域数及び名簿登録者数（令和2年度）

地域数 333地域  
名簿登録者数 81,459人

市民後見人バンク  
登録数 286人

70 大阪府社会福祉協議会設立70周年記念誌

### ひろげる

区ボランティア・市民活動センターボランティア登録数（令和3年3月末時点）

個人登録 3,107人 団体登録 1,023団体

善意銀行の預託金額・件数（令和2年度）

金銭預託 232件 物品預託 273件  
(62,810,851円)

賛助会員数（令和2年度）

個人会員 7,578人 団体会員 1,245団体

大阪市社会福祉研修・情報センター  
研修受講者数（令和2年度）

4,043人 229人

70 大阪府社会福祉協議会設立70周年記念誌

### つなげる

地域福祉活動の実施数（令和3年3月末時点）

市内の地域社協 326地域  
ふれあい喫茶 300地域  
食事でサービス 291地域  
子育てサロン 280地域

広報誌発行部数・  
ホームページアクセス数（令和2年度）

広報誌 952,000部  
ホームページアクセス数 800,811件

「地域子ども支援ネットワーク事業」  
登録活動団体数（令和3年7月末時点）

176団体

「介護予防ポイント事業」  
活動登録者数（令和3年7月末時点）

2,991人

70 大阪府社会福祉協議会設立70周年記念誌

「数字で見る市社協・区社協」ページでは、「ささえる・ひろげる・つなげる」の3つのキーワードに沿って、社協の今を伝えています。

### 設立 (昭和26年)



設立総会(昭和26年3月発行「大阪の社会事業」第12号)



昭和39年9月「大阪市立社会福祉会館」が開設され市社協事務局が移転。後、昭和62年に建替えし「大阪市立社会福祉センター」に改称



当時の活動が記録された「～老人食事サービス～ボランティア体験記」



本会設立50周年誌（平成14年3月発行）巻頭ページ。児童館、勤労青少年ホーム、老人福祉センター、子育ていろいろ相談センターなどの取組みが紹介されている

### 70周年 (令和3年)



設立70周年記念 大阪市社会福祉大会  
(令和3年10月15日)



地域子ども支援ネットワーク事業シンポジウム  
(平成30年11月)



職員による街頭募金  
(平成28年4月)



岩手県陸前高田市でのボランティア活動  
(平成23年9月)



市社協HP内「設立70周年記念特設ページ」はこちら



## 編集担当者がおすすめする70周年記念誌の読みどころ

私のおすすめは「24区社協の取組み」ページです。各区社協が現在進めている特色ある取組みを知ることができます。取組みの写真のほかに、職員集合写真も掲載しており、各区社協の雰囲気が伝わってきます。

本記念誌は「この10年間のあゆみ」をメインに作成しています。特にこの10年は、取り巻く社会情勢も変化し、市・区社協の取組みも大きく変容してきました。全体の流れやテーマ別など興味があるページから読みすすめてください。

「設立からの歴史」は70年を8ページにギュッとまとめました。特に若い社協職員には、これをきっかけに各区社協や地域の歴史にふれたり、職場や地域の先輩方からその時々のお話を聞く機会が増えるのではないかと思います。

# あらためまして、 生活支援コーディネーターです。

各区社協に配置されている生活支援コーディネーターは、令和3年度から新たなメンバーが加わり「2層体制」になりました。一方で「役割・しくみがわかりづらい」「生活支援コーディネーターとしても伝え方に悩んでいる」という声も聞かれます。そこで本記事では、その背景や特徴を解説します。

## 大阪市では 各区社協に配置

生活支援コーディネーターは、国の介護保険法に基づき全国の自治体ごとに設置されています。頭文字を取った「SC」という略称や、「地域支え合い推進員」と呼ばれることもあります。（本記事では、以下「SC」と表記します）

大阪市内では、各区社協が市から「生活支援体制整備事業」を受託し、SCを配置しています。平成27年に3区、翌年には8区と段階的に広がり、平成29年10月から24区社協に1人ずつ、区全域を担当する第1層SCを配置。令和3年4月に事業が拡充し、第2層SCが市内66日常生活圏域（大阪市内は地域包括支援センターの担当圏域）を単位に追加配置され、2層体制（各区2～6人）となりました。

## キーワードは 介護予防と生活支援

「生活支援コーディネーター」という名称から、困りごとの相談を直接受け、その人に合った支援メニューを個々にコーディネートするイメージを抱くかもしれませんが、そうではありません。

地域で暮らす高齢者の方々が、つながりを持って元気に暮らし続けるため（Ⅱ介護予防・健康づくり）、また、ちょっとした困りごとを助け合って解決するため（Ⅲ生活支援・助け合い）の具体的な活動やしくみの充実に向けて、さまざまな人や団体をコーディネートする（調整する）のが主な役割です。

SC自身が活動の場を運営するのではなく、住民・関係者が自分たちの活動として立ち上げ、継続できるように、声を拾

## みんなの力を 引き出し、 つなぎます

い、きっかけをつくり、相談に乗り、ともに考えます。

SCは担当地域を知り、高齢者の生活状況・課題に目を向け、さまざまな強みを持つ人・団体・場・サービスなどを把握し、「あつたらしいな」という社会資源について検討します。その際、日々高齢者の暮らしに密接に関わる専門職や地域の活動者の方々と対話・連携が鍵となります。

また、これらを進めるため、住民・関係者に呼びかけて「協議体」という話し合いの場を設け、高齢者が元気で暮らせる地域づくりに向けて、現状・課題や今後の必要なことを

共有します。これまでの第1層協議体（区域）に加え、新たに第2層協議体（地域包括支援センターの担当圏域より、さらに小さな圏域での開催もあり）が順次開催されています。

## どこに相談していいか 迷ったら区社協へ

区社協では、SCのほか

も、広く地域福祉活動の支援や、困りごとを抱えた人の相談窓口も担っています。事業が多岐に渡るがゆえに「この相談って生活支援コーディネーターでいいのかな?」「どこの窓口かわからないけど、こんな活動がしてみたい」など、窓口に迷われた場合も、まずは区社協までお尋ねください。



買い物に困っているという声から  
移動販売が実現（城東区）



3会場を中継して初めて開催した  
第2層SC情報交換会(10月7日)



スマホを介して新たな参加・  
つながりづくりへ（淀川区）



さまざまな場所・形態で体操の場が  
広がっています（西成区）

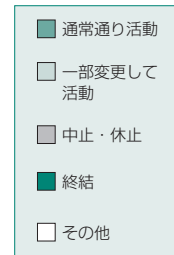


# 地域福祉活動の今

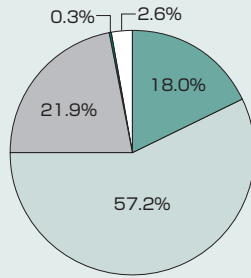
「コロナ禍における  
地域福祉活動状況調査」より

地域福祉活動は、依然、新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受けています。長引くコロナ禍のなかで、感染対策を講じて通常通りの活動を実施したり、形態や方法を一部変更して活動を継続したり、感染リスクを考慮し中止を選択するなど、活動によって状況はさまざまです。コロナ禍における地域福祉活動の状況の推移

を定期的に調査し、共有することで、活動再開やアフターコロナを見据えた活動について、共に考え、きつかけになればと思います。  
今号では、令和3年10月末時点の市内の地域福祉活動状況を掲載します。

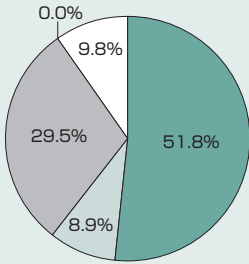


## A. 食事サービス



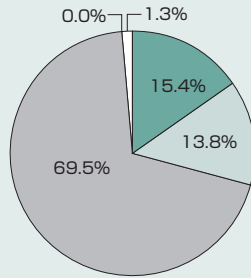
会食から配食・テイクアウトに変更し、活動を継続している地域が多くあります。

## D. いきいき百歳体操



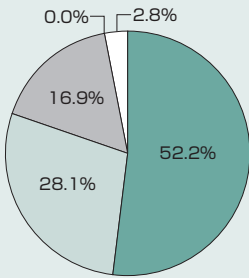
会場を広い場所へ変更したり、2部制にしたりすることで、実施しているところも多いです。

## B. ふれあい喫茶



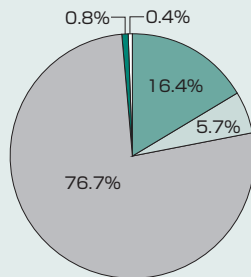
中止・休止している間にも、活動再開に向けて話し合いの場を持っている地域も見られます。

## E. こどもの居場所活動



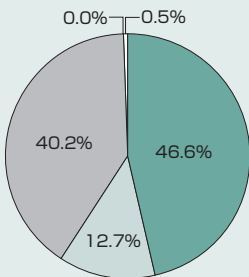
学習支援の場などを中心に、通常通りに活動しています。

## C. 子育てサロン



一部の子育てサロンでは、オンラインで開催し活動を継続しています。

## F. その他の社協が関わる居場所活動



当事者の人たちの居場所などを中心に、活動を継続しています。

## 風をよむ

子どものメンタルヘルス危機に  
どのように取り組むべきか

大阪市立大学大学院 生活科学研究科 助教 清水由香

令和2年度の児童生徒の不登校や自殺者数が文部科学省より、自殺者数が過去最多の415人と公表された。未来ある若年者の自殺は、コロナ禍以前からすでに課題であり、前年が317人、10年で約2.7倍の増加という待ったなしの社会問題である。文科省はスクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカーの配置事業の充実、早期発見・予防を目的に心の健康問題の認識や援助希求態度の育成等に取り組んでいる。虐待、いじめなど傷つき体験のある児らには、その影響から自尊心の低下が認められる傾向がある。そのため、自分是他者に助けを求めるに値しない人間であるという思い込みがみられるなど、SOSの発信力の育成は容易ではない。子どもの声を聴くことができる環境として、学校や家庭以外の第三の場である居場所（子ども食堂など）の開設やSNSの相談サイトなど、選択肢は広がっている。子ども

どもらが資源を活用し、SOSを発信する力の育成が重要度を増している。筆者は社会福祉を学ぶ大学生から、社会福祉で学ぶ大学生や資源の活用などを義務教育で学ぶべきである、という声を聴くことがある。まさに今、生きる力を育む福祉教育を学校と連携して進めていくべき時なのである。一方で、子どもへのアプローチや相談機会の充実の他に、子どもを取り囲む社会環境の調整や政策的な社会改革も必要であろう。最も身近な大人である親や教員が子どもの声を聴くゆとりを持てるような就労環境調整や、社会保障や経済的な支援策が求められる。大人がSOSを出しても救われるような地域であり、大人が希望を持てる社会構築が、子どもの希望につながることを考える。

参考：文部科学省「令和2年度 児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査結果の概要」令和3年10月13日発表 [https://www.mext.go.jp/content/20201015-next\\_jidou2-100002753\\_01.pdf](https://www.mext.go.jp/content/20201015-next_jidou2-100002753_01.pdf)

# こんなこと 私たちの施設から やってます! 39

社会福祉法人 堺あかり会  
浅香東保育園

## みんなちがって みんないい ―地域の皆さんと関わり育つ―

浅香東保育園は、平成31年に大阪市立浅香東保育所の移管により民営化し、社会福祉法人「堺あかり会」が運営している保育園です。令和元年12月に新園舎が完成し、引っ越しを楽しみにしていた子どもたちと一緒に大好きな絵本やおもちゃなどを運び入れ3階建ての新園舎での生活が始まりました。3年目を迎えた現在では在園児数も増え、0歳児から5歳児まで140名定員の保育園となり、園舎にはいつも元気な子どもたちの声があふれています。

「一人一人のありのままの姿を受けとめ豊かな人間

性を育む教育・保育」を理念とし、子どもたちに寄り添った保育をおこなっており「あかるく健やかげんきな子ども」「かんせい豊かな優しい子ども」「りかいする力を持った逞しい子ども」を教育目標としています。

運動・製作・音楽などさまざまなことに取り組み、意欲のある子どもの育成をめざしています。

多様な在り方を尊重し、共に生きる・共に学び育つ「インクルーシブ保育」を取り入れるとともに、外国籍の子ども、異年齢の子どもとの関わりも大切にしています。また、高齢者・障がい者雇用も積極的におこない、一人一人の特性に合わせた働き方ができる場を提供するなど社会貢献につなげています。

一日の多くの時間を園で過ごす子どもたちにとって温かい場所であるとともに、保護者の皆様が子育てを楽しむことができ、気軽に相談できる「子育ての良きパートナー」となり、地域の皆様にも愛される開かれた保育園として、住吉の地に根付くことができるようがんばっていきたいと思います。

住所 〒558-0021 大阪市住吉区浅香1-1-38  
電話 06-6697-5987  
Mail e-asaka@aioros.ocn.ne.jp  
HP <https://sakaiakari-kai.jp/asaka/>



### 祝 各種表彰

市・区社協、民生委員児童委員協議会（民児協）の主な関係者の受章は次のとおり。（敬称略）

#### ◆秋の叙勲・褒章

<瑞宝単光章>（社会福祉功労）  
布村三保子（西淀川区民児協会長）  
<緑綬褒章>（社会奉仕活動功績）  
中野紀久雄（住之江区社会福祉協議会会長）  
<藍綬褒章>（社会福祉功績）  
阪中 雅博（浪速区民児協会長）

#### ◆厚生労働大臣表彰

<社会福祉功労>  
三木 一誠（福島区民児協会長）  
布村三保子（西淀川区民児協会長）  
森本 文夫（住之江区民児協会長）  
松野 長次（平野区民児協会長）

三井住友海上の安心

GK

1人1台の保険 24時間365日の保険 火災・盗難の保険

www.ms-ins.com

### 令和3年度 地域福祉シンポジウム

#### コロナ禍とその先を見据えた地域福祉活動の展開

コロナ禍とその先を見据えた安心・安全な活動について、ICTの活用を含む新たな取組みへのチャレンジ精神の醸成に繋がるよう、2団体によるコロナ禍での活動事例を共有し、コロナ禍における地域福祉活動の活性化に向けて開催します。

日時 令和3年12月14日(火) 14:00~16:00 [開場13:30]  
会場 大阪府教育会館(たかつガーデン) 8階 たかつ 東中  
(大阪市天王寺区東高津7-11)

オンライン Zoomによる配信 ※後日URLとパスコードを送信します。

#### 【基調講演】

関西福祉大学 准教授 藤原 慶二 さん

#### 【実践報告】

中央区桃谷地域：桃谷スマホサポーターの取組み

住吉区長居地域：どんな形でも、子育てサロン

ーオンラインへの挑戦と対面での再開ー

#### 参加者募集!

- 対象：テーマに関心のある市民・関係者など
- 定員150人（会場40人・オンライン110人） ●申込先着順
- 申込期日12月9日(木)

<申込み・問い合わせ先>

社会福祉法人 大阪市社会福祉協議会（担当：地域福祉課）  
TEL: 06-6765-5606 FAX: 06-6765-5607  
E-mail: fukusi@osaka-sishakyo.jp

